



1201 事業作成媒体について

「カバ君」エプロンシアター



エプロンシアターとは、

演技手がエプロンを着け、着用したエプロンを舞台に見立てて物語を展開させていく人形劇です。色々なものがポケットから出てきたり、エプロンの布地をめくって場面が展開する等の仕掛けがあるので、見る方にも臨場感が伝わります。

エプロンシアターの魅力

演技手そのものが舞台になれる

演技手が舞台やナレーター、登場人物になり、演技手の表情や動作をも話に反映させることが出来るので、臨場感あふれる内容を子どもたちに届けられます。

多様な仕掛けがある

次々にポケットから色々なものが出てくるので楽しく、加工しやすい布を生かした仕掛けも子どもを夢中にさせます。

アレンジが可能

演技中でも子どもたちのアイデアを即座に取り入れることができ、その時々の子供たちの反応に合わせてながら出来るので何度でも楽しめます。

子どもたちから演技手が見える

演技手の顔がしっかり見えるので、子どもたちは安心して話を聞く事が出来ます。演技手からも子どもたちの様子が見えるので、反応に素早く応じることが可能です。

演じる前に

- ・エプロンの首ひもはしっかりと止め、胸の高さに合わせる。
(話をスムーズに進めるためにもエプロンの位置は重要です)
- ・腰ひもは緩めに結ぶ。(本会が作成したエプロンシアターは裏面に横棒を入れています)
- ・仕掛けや登場人物の位置を確認しておく。
- ・事前に練習をしておくことが大切。

演技方のポイント

- ・顔はなるべく下を向かず、子どもたちの方を見る。
- ・エプロンがすべての子どもにも見えているか、注意を払う。
- ・直立不動ではなく場面に応じて動いてもよい。
- ・はっきりと子どもたちに聞こえるように話す。

「カバさん」エプロンシアターのねらい

- ・甘いおやつとむし歯の関係。
- ・受診勧奨。
- ・歯磨きの大切さ。

上記の3つを園児、保護者にエプロンシアターを通して楽しく学んでもらう

保護者には当日の話として終わるのではなく、自宅でのエプロンシアターの振り返りを通して日々のむし歯予防行動を充実させるきっかけにしよう。

注) 応用編のとして「よく噛む事」「上手に口を使うこと」「唾液」について話ができる。

カバさんエプロンシアター

セット内容

基本用	応用
<ul style="list-style-type: none"> ・エプロン本体 ・展示用のボード ・エプロン裏面に差し込む棒 (1) ・大型歯ブラシ (1) ・カバ君の歯 (20) ・むし歯の歯 (2) ・治療済みの歯 (2) ・目 (2) ・涙 (1) ・ジュース (1) ・棒付きアメ (1) ・チョコレート (1) ・グミ (2) ・ケーキ (1) ・おにぎり (1) ・リンゴ (1) ・トウモロコシ (1) ・イチゴ (1) ・ムシバイキン (3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食パン (1) ・食パン 耳のみ (1) ・すいか (1) ・すいか 皮のみ (1) ・すいか 種 (1) ・唾液 (2)

準備



ジュース アメ等
むし歯になりやすいおやつ

(各自選んで入れておく、他の物はボードに貼ったり取り出しやすいところに置く)

むし歯になりにくいおやつ

(各自選んで入れておく、他の物はボードに貼ったり取り出しやすいところに置く)

口を開ける時は、上部のマジックテープに合わせる



横棒を3か所のループに通して、両端を固定させる

ムシバイキン (3) を裏ポケットに入れておく、
(取り出す時に顔が表を向くように入れる)

大型歯ブラシを挿しておく

使用する食材でポケットに入らないものはボードになっておくか、取り出しやすいところに置く



流れ

エプロンシアターの前に

挨拶、自己紹介、今日何をするか？簡単な流れを説明する。

エプロンシアターは各自が話しやすいように、自分の言葉で話して下さい。

園児に向けての講話なので分かりやすい言葉で話してください。

話の途中で、適宜保護者向けにアドバイスを入れてください。

☺はカバ君のせりふです

「今日はエプロンを持ってきました。何がついているか当ててくださいね」

—エプロンのカバを見せて、装着をする



「そうですね、カバはどの位、口が開くか知っていますか？
カバ君と一緒にやってみましょう。」

— と言いながら、園児と一緒に口の開閉をする

「カバ君は何を食べるか知っていますか？」

— 答えを待つ

「実はこのカバ君は草よりもっと好きなものがあるんです」

「家に帰るとすぐに冷蔵庫を開けて」

— と言いながら、ジュースを園児に見せる

「みんなも好きですか？」



— キャップを開け、飲み口を口の中に差し込み、空いた手を裏に回して、ペットボトルの中の布を向きながら

☺「ゴクゴクゴク」

— 飲み切ったら空のペットボトルを園児に見せ

☺「あ～おいしかった」

☺「他にも好きなものがあるんだ」

☺「これこれ、大好きなペロペロキャンディみんなも好き？」

— と言いながら、アメを食べる。うろうろ歩きながら食べてもよい。アメは口の中に入れるが、棒は出し、園児に見せる



「カバ君、甘い物ばかり食べているけど、おにぎりやトウモロコシをカバ君のお母さんが用意してくれているよ？」

☺「ううん、僕そんなの嫌い、次は何にしようかな？」

— 食べないものはポケットの上のマジックテープに貼ってもよい

園児の様子を見ながら、他にも2つ程度甘い物を食べる（ただし、裏ポケットがいっぱいになると、操作がしにくくなるので気を付ける。中のムシバイキンを出す時に大変にならないように不要なものはそっと出してもいい）



☺ 「なんだか、眠くなってきた・・・」

「えっ？歯磨きは？」

☺ 「う～ん・・・ぐ～ぐ～ぐ～」

—と言いながら、目を貼る

「あ～あ～カバ君、寝ちゃったよ」

—演技手の耳に手を当てて

「あれ？静かにしてみても、何か聞こえるよ」

☺ 「痛いよ～痛いよ～」

—と言いながら、涙を貼る

「カバ君、どこが痛いの？みんなカバ君どうしたのか

なあ？」



—口を開け、乳歯をむし歯に貼りかえる

「あっ！むし歯ができていますよ、」

「口の中に何かいるみたいだよ、」

—と言いながら口の中からムシバイキンを
出しながら貼り付ける

「みんな、どうしよう」

「カバ君、お口が痛いっていているから
むし歯を治さないといけないねえ」

—解決法は園児から聞き出す。こちらが正解を
言う。クイズにする等々の方法から導き出す



—治療済みの歯に貼りかえながら

「カバ君は歯医者さんでむし歯を治
してもらいました。」

「良かったねえ。あれ、まだお口の中
にムシバイキンがいるよ、どうし
たらいいかなあ？」

—解決法を、見つけていく



「正解は・・・」と言いながら後ろポケットから歯ブラシを出す

「歯みがきを試してみるね。ゴシゴシゴシ」

—歯列を磨き、ムシバイキンを歯ブラシでゴシゴシしながら落とす



「これで、カバ君のお口はきれいになりました」

—口を閉じて、涙を外し、目を 180 度回転させ
ニコニコの目にする。

まとめの話をし、お勧めのおやつ、食事の大切さも
伝える。健口のための約束を決める。



応用編



これらのおやつを使って、むし歯になりにくいおやつと言うだけでなく、噛む事、だ液もたくさん出る事を話す。



流し食べの警鐘にも使える。



食パンの耳を残す園児もいるので、耳もよく噛んで食べる話を使う。



すいかを食べる時の話を例に、前歯を使ってかじり取り、種を口の中で上手により分け、種を出すことは、

口を上手に使うことになり、異物の認識、除去が出来るだけ

だけでなく、はっきりと話しをすること等につながる話をする。

(種は糸で繋がっているため、口から飛ばす話を使うことが可能)

